

保健室登校に関する養護教諭の意識

伊藤美奈子

(お茶の水女子大学人間文化研究科)

近年保健室は、「学校現場での駆け込み寺」として、健康管理の場という機能だけでなく、子どもたちの心理面のケア（相談活動）を担う場としての期待が高まってきている。「クラスには入れないが保健室なら安心できる」という児童・生徒が増加するなか、不登校児童・生徒への対応の一つとして、「保健室登校」をサポートする学校が増えている。しかし、この保健室登校に関しては、養護教諭の肩にかかる業務の多さゆえに賛否が分かれるところである。本研究では、養護教諭を対象に、保健室登校の実態とその問題点を明らかにするとともに、スクールカウンセラー（以下 SC）の導入との関連についても考察してみたい。

方法

調査時期：2000年10～12月。

調査対象：小・中学校の養護教諭105人。20代16人、30代21人、40代46人、50代23人。

調査方法：個別配布と郵送による配布・回収。

調査内容：①保健室登校についての悩みについての16項目。因子分析の結果、〈手の足りなさ〉〈連携の難しさ〉〈対応への迷い〉という3因子構造であることが確認された。「あてはまる」～「あてはまらない」までの4件法。②スクールカウンセラーへの希望に関する15項目。「そう思う」～「そう思わない」までの4件法。因子分析の結果、〈専門性への希求〉〈オープンさへの希求〉〈直接関与への希求〉という3因子が抽出された。③養護教諭がカウンセラー役を兼務することの可否に関する質問。4件法。④保健室登校の有無（昨年と今年）。さらにフェイスシートにおいて教諭暦・年代・所属校の校種・スクールカウンセラー派遣の有無。

結果と考察

保健室登校についての悩み3得点のうち、〈手の足りなさ〉〈対応への迷い〉は中央値2.5点より高かった（それぞれ2.77点、2.78点）。一方、SCへの希望3得点の平均については、すべて3.0点より高く、とりわけ〈専門性への希求〉については3.68点という高さであった。多忙な中、対応に苦

慮するケースを抱える養護教諭からSCに対する期待や要望の強さがうかがえる。

ここで保健室登校やSC配置の有無によりクロス集計したところ、保健室登校を抱えている率は、SCがいる学校所属の養護教諭では24人(80.0%)であるのに対し、SCがいない場合は27人(35.1%)となった($\chi^2(1)=17.46, p<.01$)。SCが導入された学校ほど、不登校を（保健室登校や相談室登校の形で）学校現場で抱える傾向が強く、その一端を養護教諭が担っていることが示唆された。

SCと保健室登校の有無による4群間で6得点の比較を行った(Table1: SCあり・保健室登校なし群は少数につき除外)。〈手の足りなさ〉で有意差($F(2.92)=9.97, p<.01$)、〈対応への迷い〉〈直接関与への希求〉で差の傾向が見出された($F(2.94)=2.44, p<.1$; $F(2.88)=2.78, p<.1$)。保健室登校を抱える養護教諭のほうが多忙感を強く抱いており、SCによる直接関与を希望する割合も大きいことがわかる。一方、子どもにどのように対応すればいいのかという迷いについては、SCがいない学校の養護教諭のほうが強く感じており、とりわけ一人で保健室登校を抱えなければならない養護教諭群で、その不安が強いことが示された。

さらに、「養護教諭がカウンセラーを兼ねるのは可能である」という質問に対し、賛否を比べたところ、保健室登校を抱えている養護教諭の賛成率は19人(38.8%)であるのに対し、保健室登校がいない養護教諭では31人(56.4%)となり($\chi^2(1)=3.21, p<.1$)、保健室登校を抱える養護教諭のほうがカウンセラー役を兼務することの難しさを痛感する傾向にあることが示唆された。

Table1 SCと保健室登校の有無による得点の比較

	SCなし		SCあり
	保健室登校あり	保健室登校なし	保健室登校あり
手の足りなさ	3.15(.58)	2.45(.76)	2.91(.56)
連携の難しさ	2.18(.58)	2.33(.60)	2.42(.63)
対応への迷い	2.95(.33)	2.74(.64)	2.59(.54)
専門性への希求	3.73(.30)	3.62(.42)	3.74(.35)
開放性への希求	3.37(.58)	3.11(.54)	3.06(.54)
直接関与希求	3.25(.51)	3.15(.57)	3.46(.37)